



- 観光マネジメント学科初の卒業生を輩出 —第49回(平成30年度)学位記授与式举行—
- 今年度は松本武雄賞入賞者9名を表彰
- 第51回飯山祭開催
- 定年退職の先生方からのメッセージ —今原先生、飯島先生、高橋先生、羽田先生—
- 空手道部 佐藤俊作君の全国空手道選手権大会出場レポート
- 岡村俊輝君(商学科)、町田舜也君(商学科)「税理士試験『簿記論』」に合格

第四十九回(平成三十年度)横浜商科大学学位記授与式が 挙行されました。

平成三十一年三月十六日(土)午前十一時より、第四十九回学位記授与式が滞りなく挙行されました。商学科一四九名、観光マネジメント学科五十二名、経営情報学科三十六名の計二三七名が学位記授与され、晴れて商大から社会へ旅立っていきましました。

今回は平成最後の学位記授与式となりましたが、平成二十五年に貿易・観光学科を改組し、新設した観光マネジメント学科は、初の卒業生となり、卒業証書番号も昭和五十三年の貿易・観光学科、および経営情報学科の学位記授与以来、四十年ぶりの一番が付され、秋田谷 匡士さんに授与されました。

また、今年は学長賞の各賞に加え、九名が応募論文の松本武雄賞に入賞しました。(入賞者は別途記載のとおり)



学長賞授与者一覧

学術賞

商学科 久保 優希
観光マネジメント学科 古田 桜
経営情報学科 張 爵

スポーツ賞

商学科 佐藤 彩華
(全国空手道選手権大会出場)
商学科 佐藤 俊作
(全国空手道選手権大会出場)

特別賞

商学科 岡村 俊輝
(税理士試験一科目合格)
商学科 町田 舜也
(税理士試験一科目合格)
経営情報学科 長田 大
(神奈川県学チャレンジプログラム最優秀賞)
商学科 西間木 聡史
(神奈川県学チャレンジプログラム最優秀賞)

教育職員免許状授与者 (五十音順)

経営情報学科 内田 樹
商学科 小池 駿介
商学科 佐藤 俊作
商学科 菅野 七海
商学科 中村 拓夢
商学科 原島 成太
経営情報学科 前田 智哉

学術賞



久保 優希



古田 桜



張 爵

スポーツ賞



佐藤 彩華



佐藤 俊作

特別賞



岡村 俊輝



町田 舜也



長田 大



西間木 聡史

松本武雄賞十編の応募で、 第二席三編、第三席三編、佳作三編

今年度の松本武雄賞の応募論文は十編と平成二十一年度以来九年ぶりに二桁の応募となりました。ここ数年は、数編の応募しかなく、学術研究会としては歯がゆい思いをしましたが、今年度は活気溢れる応募に心弾む心境で論文審査に臨みましたが、公正かつ慎重に審査した結果、残念ながら第一席は該当者なしでしたが、第二席三編、第三席三編、佳作三編の受賞となりました。応募した学生並びに事細かく論文指導をいただいた指導教員の方々にあらためて敬意を表します。

松本武雄賞入賞者表彰

- 第一席 島松 果乃 (佐藤義文ゼミ)
「税務調査の問題点と今後の税務調査」
- 第二席 前田 智哉 (高橋 浩ゼミ)
「学校教員の長時間労働問題―問題解決を目指して―」
- 第二席 宮崎 栄 (坪川 弘ゼミ)
「公共放送としてのNHK受信料の法的位置づけに関する一考察―最高裁判決の今後の動向を中心として―」
- 第三席 野島 みふゆ (佐藤義文ゼミ)
「栃木県における地場産業の発展に関する課題―県の自主財源の増大へ向けて―」
- 第三席 山本 美雅 (中村純子ゼミ)
「葬送儀礼の変容―日本の葬送儀礼にみる多様化と簡易化―」
- 第三席 和田 明日香 (高橋 浩ゼミ)
「『キラキラネーム』が子どもにも与える影響―自己肯定感を高める名前―」
- 佳作 飯塚 航希 (飯島千秋ゼミ)
「横浜の未来の交通」
- 佳作 長田 大 (遠山緑生、細江哲志ゼミ)
「新しい映像技術の比較と、有効な利用方法の提案」
- 佳作 張 爵 (浮田善文ゼミ)
「中国のモバイル決済の発展経験から考える日本でのモバイル決済の普及率向上に関する考察」

第一席



島松 果乃



前田 智哉



宮崎 栄

第三席



山本 美雅



和田 明日香

佳作



飯塚 航希



長田 大



張 爵

第五十一回飯山祭開催

十一月十七日・十八日に開催された第五十一回飯山祭が無事に終了しました。今年は、例年より多くの方々のご来訪があり、飯山祭当日は大変賑わっていました。模擬店も多く、多くの団体が来店し、学生たちは寒い季節の中、額に汗しながら頑張っておりました。

十七日はホームカミングデーや育友会主催の保証人向け就職支援講座、同窓会総会(懇親会)など、キャンパスのあちこちで多様なイベントが開催されていました。続く十八日は、一年次生を対象としたゼミの説明会、芸能人によるステージイベントなど、初日と同様に活気あふれる状況でした。

十一月十七日、つるみキャンパスにて第五回ホームカミングデー(HCD)が二年ぶりに開催されました。今回のHCDは、体育部連合会による「ちびっこラグビー・ハンドボール教室」、文化部連合会による「ちびっこ実験教室」など学生団体も参加して、OBの方と交流を深めました。その他、商大MUSEUM、自動車部OBによる展示など、開学五〇周年記念館をメイン会場として、多数のイベントが開催されました。

また、今年も第四十三回横浜商科大学同窓会懇親会との共催で懇親会が開催され、支部ご当地名産品体験コーナーや、ふるまい酒として一斗樽が用意され、大いに盛り上がりました。普段なかなか会えない同窓生も学生時代を思い出し、話が尽きないようでした。



お笑いライブ



飯山祭ステージ



模擬店



各支部からのご当地名産体験コーナー



多くの卒業生でにぎわう懇親会会場



山崎同窓会長による乾杯



定年退職教員メッセージ 1

今原 和正

定年退職にあたって

非常勤講師として四年、専任教員となってからは三六年、併せて凡そ四〇年間を、ここつるみの丘で過ごしました。その間出会った人の数は一体どれほどになるのでしょうか。いろいろな人の想い出が胸の内を去来します。なかでも提携校の中国の先生方と楽しい酒席の場をともにできたことは、私の人生を、本当に豊かなものにしてくれました。そのような環境を整えてくださった関係者の皆様に、改めて感謝いたします。とりわけ、第二代学長、故大澤一雄先生には、公私ともに大変お世話になりました。いまこの場をお借りして、心からの感謝を捧げたいと思います。大澤先生が亡くなられたのが六八歳の時。ちょうどいまの私と同じ年齢です。病魔に冒されながらも決して弱音を吐くことなく、最後まで商大のために力をつくされた先生がおられたということを後輩の皆様にお伝えして、つるみの丘を去ることにします。皆様の健康と商大の発展を心からお祈りいたします。



研究分野:中国古典文学(唐詩)

【経歴】1974年3月慶應義塾大学文学部卒業／1982年3月慶應義塾大学大学院文学研究科単位取得退学／1983年4月横浜商科大学専任講師／1987年4月横浜商科大学助教授／1995年4月横浜商科大学教授

Profile

研究分野:近世社会経済史

【経歴】東京教育大学大学院文学研究科修士課程修了／筑波大学大学院歴史・人類学研究科博士課程 単位取得満期退学／日本学術振興会奨励研究員／横浜商科大学専任講師、助教授を経て、教授。学位:文学修士、博士(史学)／第3回徳川賞受賞(2005年)

Profile

定年退職教員メッセージ 2

飯島 千秋

思い出の詰まった横浜商大

眼下に遠く横浜の海が見える素晴らしい眺望の横浜商大に、私が勤め始めたのは一九八二年のこと。そのころは、今の一号館の所に木造の体育館が、また、中庭にはラニスコートがあつて、その後の新・改築によって形づくられた現在の景観とは大きく違っていました。そして、私が勤めてまもなく要請されたのが「大学史」の執筆でした。翌年に予定されている開学二〇周年の記念式典に間に合わせるようにとのことで、すでに退職された大石庄先生と二人で、授業の合間を縫って僅か半年という短期間で『横浜商科大学二十年史稿』を作り上げたのは、いまでも懐かしい思い出です。教育活動における、ゼミを通じての学生との交わりは本当に楽しいものでした。夏冬の合宿で鍋などを囲んでの語らひは深夜に及ぶこともしばしばでした。ゼミ卒業生は三三〇人を数えますが、卒業生たちからの便りは私の宝物になっています。研究面では、江戸幕府財政史研究を一貫して追究してきましたが、二〇〇四年に、それまでの研究を一書にまとめ、成果を世に問うことができ、更にそれに対して「第三回徳川賞」を受賞できたことは望外の喜びでした。大学を取り巻く環境は大きく変わり、大学が果たすべき役割も変わりつつありますが、しかし、教育と研究は、大学の変わらぬ基本的な使命であろうと思います。横浜商大が七〇年、そして一〇〇年と年輪を積み重ね、大きく発展されることを心から祈念しています。



定年に想う事、あれこれ

退職まで、あと二か月となった。しかしこの二か月という時間の認識は、たとえば二メートルという距離のそれと比較してやたら難しい。いい変えれば時間の概念は抽象的かつ理想的であるのに対して、距離の概念は具体的で現実的である。距離についての判断は、視力の認識に依るけれど時間についてはそうはいかないからである。筆者にとって、この理想世界と現実世界とのせめぎあいは、中学生の頃からはじまり始めた。誰もが経験するように、現実世界でのいろいろな軋轢を見て来た。どこか別の世界に逃げてしまいたい気分になったときでも筆者の場合、現実世界から理想世界に即座に入り込むことが出来た。理想世界とは数学の世界である。一種の逃避なのであるが、これがまた気分がいい。数学の中でも論理学や集合論は、純粹に思索の世界に没頭できる。しかも、現実世界で起こり得る差別やパワハラなんぞとも無縁の世界である。実は多くの情報通信技術は、二〇世紀に入ってから発達した論理学や集合論を、その基礎に持っている。本学で、このような理想世界での話を講義する機会が与えられたことは、幸せな教員生活であった。これからは逃避の場は陋居の自室に移る訳である。ただ時々老荘の世界から蝶に姿を変え、鶴見の丘までひらりひらりと、飛んでみたいと想っている。



研究分野:理論計算機科学

【経歴】1974年法政大学工学部卒業／1976年法政大学大学院修士課程修了／1976年株式会社ジャステック入社／1978年株式会社ジャステック退社／1978年横浜商科大学技術助手／1981年横浜商科大学助手／1985年 横浜商科大学専任講師／1990年 横浜商科大学助教授 /1999年 横浜商科大学教授

Profile

第三の人生に向けて

商大に転職したのは一九九八年。転職した最大の理由はマネジメント仕事・会議が増え、「地域の現場」から離れていくことに危機感を覚えたからだ。当時、研究室で授業の準備をしながら、徒労感が強かった業務から開放された喜びに包まれたことを思い出す。学生についても、やはりというか初期の頃に担当した卒業生ほど今でも親交がある。子供さんが生まれた知らせなどを聞くと嬉しい。ただ五年目に「教務部長」に就かざるを得なかった。以来、教務部長を（間は開いたが）二期四年、学部長を二期二年、そして最後は副学長を一年。通算七年、つまり大学人生活の三分の一を「執行部」の一員として過ごしたことになる。正直、この間はあまり良い思い出はない。反面で、大きなミスをしでかしたこともないはずで、むしろ数々の「善処」対応をしてきた自負はある。でもまたやマネジメント仕事・会議に追われ、「地域の現場」から離れてきた感否めない。今後は大学を卒業してから一貫して志してきた「良い観光地をつくる」ことを目指して、地域の観光調査・研究・コンサルテーション仕事に邁進していきたい。



Profile

研究分野:観光地計画、観光地域づくり、産業観光

【経歴】1974年立教大学社会学部観光学科卒業、同年、株式会社日本交通公社入社。同時に財団法人日本交通公社に移籍、調査部に所属。1998年に同財団を退職（退職時、地域調査室長・主席研究員）、横浜商科大学に奉職、現在に至る。現在、内閣府総合特区専門家委員、神奈川県真鶴町まちづくり審議会会長、群馬県沼田市観光活性化推進協議会会長、福井県美浜町観光開発審議会会長、京浜臨海部産業観光推進協議会副会長 等

第五十六回 全日本空手道連合会全国大会に出場して

横浜商科大学体育部連合会空手道部

佐藤 俊作 (商学科 四年)



私は、六歳から十六年間空手を続けてきました。横

浜商科大学に入学後も空手道部に入学しました。空手道部は少人数ではあるもの

の、日々練習に励み、私は一年次生の時に全国大会の出場を果たしました。それから三年後、今回、二回目の全国大会となりました。

今回は、試合会場の雰囲気や緊張感に圧倒され、自分の戦いをする事ができませんでした。今回は、出場が決まった時から、その教訓を生かし「勝つこと」を目標に練習に取り組んできました。

体調管理やイメージトレーニングを入念に行うため、大会の前日から、大阪の会場に乗り込み調整を行いました。結果は一回戦で敗退となりました。

前回と違って、全国レベルの壁の高さを痛感したものの、自分の力を100%出し切るこ

うことができました。これは、今後の自分の人生を歩む上で、大きな自信となりました。

また、学長賞スポーツ賞という名誉ある賞もいただいたことは、勉強のみならず、部活動でも充実した四年間を過ごすことができた証でもあったと思います。

これで、横浜商科大学を卒業することになります。今後、社会人になっても空手を続けていこうと思っています。

最後となりましたが、これまで、ご指導いただいた監督、顧問の先生をはじめ、ご支援やご協力をしていただいた大学および同窓会、育友会の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。あらためて御礼を申し上げます。



資格取得

岡村俊輝君、町田舜也君「税理士試験『簿記論』」に合格

平成三十一年度の税理士試験「簿記論」に商学科四年の岡村俊輝君と同四年の町田舜也君の二人が合格しました。岡村君と町田君は、平成三十年度税理士試験「財務諸表論」にともに科目合格していましたが、本年度も見事「簿記論」に合格しました。これで、ここ数年、二十人三十三科目の税理士試験科目合格となりました。ちなみに、在学中の二科目合格は、岡村君と町田君を含めると九人目の快挙。あらためて、二人の快挙を称えたい。



Holmesglen Institute(オーストラリア)と 学術に関する覚書に調印しました

オーストラリアHolmesglen InstituteのChief ExecutiveであるMs. Mary Faraoneと横浜商科大学小林雅人学長は、二〇一八年十一月二十九日にオーストラリア大使公邸にて、学術連携に関する覚書に調印しました。

この覚書は、横浜商科大学とHolmesglenとの協力に関する協議の促進、グローバルな活動に対応するための、両機関の教職員および学生の国際化および日本・オーストラリア国内外における横浜商科大学およびHolmesglenの知名度の向上を目的として交わされました。

写真は調印式と、中庭での談笑の様子です。



『SHODAIテラス』に名称決定

今年六月、旧三号館の跡地に人工芝の広場を設置し、学生を対象に広場の名称募集を行いました。多くの学生に応募いただいた結果、名称は『SHODAIテラス』に決定いたしました。

名称は藤森翔太(観光マネジメント三年)によるもので、十一月十七日の飯山祭で表彰式が行われました。

設置に際しましては、同窓会と育友会の皆様からご寄付をいただきましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

学生はもちろん、地域の皆様も『SHODAIテラス』を是非利用してくださいね！



本学では最新情報を、 Facebookページで発信しております。



横浜FCと「スポーツ関連産業人材育成に おける連携に関する協定」を締結しました！

本学は二〇一八年四月二十三日、株式会社横浜フリエスポーツクラブ(横浜FC)(代表取締役COO 上尾和大氏)と「スポーツ関連産業人材育成における連携に関する協定」を締結しました。

締結式で、横浜FCの上尾COOは「大学と協定を締結するのはクラブとして初めて。学生の知恵を借りてHAMABLU PROJECTなどをもっと活性化していければ。」と述べ、一方の本学、小林学長は「スポーツマネジメントの現場を学生が体験できる機会が増えることを期待している。末永く協力していければ。」と今後の相互発展に向けた展望について述べました。



佐藤義文ゼミ生が鶴見区と横浜FCによる 小学生対象の特別授業で活躍しました！

十月十七日(水)、入船小学校(鶴見区浜町一丁目)において、五・六年生約九〇名を対象に鶴見区と横浜FCによる多文化共生授業が行われ、本学の佐藤義文ゼミの三名が参加しました。

鶴見区は、中区に次いで市内で二番目に外国人区民が多い(平成三十年九月現在一万二、六五八人)ことから、平成二十年度より「多文化共生のまちづくり」に取り組んでいます。市内プロサッカーチームである横浜FCの協力を得て、チームの主力として活躍する外国人選手が「先生」として、区内小学校を訪問し、自身の体験や感想を伝える授業を実施しています。

今年四月に本学が横浜FCと「スポーツ関連産業人材育成における連携に関する協定」を締結したことをきっかけに、本事業のボランティアとして本学の学生が参加することになりました。



横浜商科大学 平成29年度決算および平成30年度予算

事業活動収支計算書

(単位:千円)

		平成29年度 決算	平成30年度 予算	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	1,274,559	1,341,941
		手数料	27,303	20,181
		寄付金	15,835	6,884
		経常費等補助金	213,657	180,200
		付随事業収入	67,446	48,198
		雑収入	61,660	112,471
		教育活動収入計	1,660,460	1,709,875
	支出	人件費	813,603	874,821
		教育研究経費	582,952	654,833
		管理経費	245,825	238,653
徴収不能額等		0	0	
教育活動支出計		1,642,380	1,768,307	
教育活動収支差額		18,080	△ 58,432	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	9,684	10,000
		その他の教育活動外収入	0	0
		教育活動外収入計	9,684	10,000
	支出	借入金等利息	5,343	6,637
		その他の教育活動外支出	0	0
		教育活動外支出計	5,343	6,637
教育活動外収支差額		4,341	3,363	
経常収支差額		22,421	△ 55,069	
特別収支	収入	資産売却差額	1,320	0
		その他の特別収入	289,098	0
		特別収入計	290,418	0
	支出	資産処分差額	201,789	737,667
		その他の特別支出	0	0
		特別支出計	201,789	737,667
特別収支差額		88,629	△ 737,667	
〔予備費〕			7,000	
基本金組入前当年度収支差額		111,050	△ 799,736	
基本金組入額合計			0	
当年度収支差額		111,050	△ 799,736	
前年度繰越収支差額		△ 2,631,048	△ 2,464,223	
基本金取崩額		55,775	2,112,814	
翌年度繰越収支差額		△ 2,464,223	△ 1,151,145	
(参考)				
事業活動収入計		1,960,562	1,719,875	
事業活動支出計		1,849,512	2,519,611	

資金収支計算書

(単位:千円)

	平成29年度 決算	平成30年度 予算
収入の部		
学生生徒等納付金収入	1,274,559	1,341,941
手数料収入	27,303	20,181
寄付金収入	14,468	6,384
補助金収入	491,287	180,200
資産売却収入	123,052	1,043,500
付随事業・収益事業収入	67,446	48,198
受取利息・配当金収入	9,685	10,000
雑収入	61,660	112,471
借入金等収入	958,000	0
前受金収入	565,612	442,400
その他の収入	622,628	966,227
資金収入調整勘定	△ 856,721	△ 676,613
前年度繰越支払資金	1,134,514	1,081,579
収入の部合計	4,493,493	4,576,468
支出の部		
人件費支出	841,810	899,939
教育研究経費支出	510,065	549,961
管理経費支出	191,689	224,992
借入金等利息支出	5,343	6,637
借入金等返済支出	143,770	360,770
施設関係支出	812,016	82,469
設備関係支出	53,232	16,730
資産運用支出	601,136	565,000
その他の支出	387,841	538,806
資金支出調整勘定	△ 134,989	△ 165,427
〔予備費〕		7,000
翌年度繰越支払資金	1,081,580	1,489,591
支出の部合計	4,493,493	4,576,468

平成30年3月31日現在

資産の部		負債及び純資産の部	
固定資産	11,485,158	固定負債	1,207,082
流動資産	1,406,387	流動負債	1,115,725
		基本金	13,032,961
		繰越収支差額	△ 2,464,223
資産の部合計	12,891,545	負債及び純資産の部合計	12,891,545

横浜商科大学報 Vol.89

発行: 横浜商科大学
アドミッション広報専門部会

発行日: 2019年3月31日

編集後記

思えば長らく編集に関わった。大学広報とは何か、学報の必要性を問われることもあった。それは「大学人としてあるべき姿」を追求する我々にとって、現況を示し多様な人々に繋がるゆえに必要と感じる。今後、学報はさらに進化するだろう。大学の絆を深める媒体になることを願い、最後の仕事を終えたい。(Mike)

昨年、新しい校舎が竣工、その後、学生たちも次々と新しいことにチャレンジを始めているようです。観光マネジメント学科も初の卒業生、懸賞論文の応募数も回復の様相を見せており、次の時代へさらに飛躍の予感がする、今日この頃です。(M)